

# 村雲の自然と歴史

## その4

「村雲の自然と歴史を歩くウォーキング周回コースを開設するに当たって各集落(リーポイント)を中心に、書物や言い伝えから拾い

出し、歴史と自然についてまとめて見ました。村雲を再発見し、いま住んでいる村師如来は、寺の前の山、西山山頂の極楽寺(明智の丹波攻めで焼失)より移されたもので、別名を「黒薬師」と言い、病氣平癒に地域の信仰を集めている。

### ⑩(1) 臼井 榎田

村雲は古代「草ノ上郷」、その後「村雲郷」、近世江戸時代は「向井組」と呼ばれ、明治21年の町村改正で「村雲村」が復活する。藩政時代の向井組大庄屋は高橋家である。高橋家には江戸時代の年貢その他の古文書が今でも大量に保存されている。産米を摂津西宮まで運送するための船会社が明治7年につくられた。その住民の足の役割も果たした。向井老人会の手開整されたのである。(結局三田までしか水路はできなかった。)馬の背に乗せれば2俵のところを船で運べば一度に18俵くらい乗るのである。向井の山倉で船の櫂(か)が見ついている。船着場がどのあたりにあったのか?興味のある話である。

向井の集落は、藁葺きや安全屋根の入母屋が瓦葺きの家々といりまじり、各家の手入れの行き届いた庭、里道の路傍にある石灯籠、旧篠山線村雲駅跡、大芋川と初井川の合流する出合など見るところがたくさんある。

### 向井 萬年山 長松寺

公民館横の緩やかな坂道を登ると、萬年山長松寺に着く。右に本堂、左に薬師堂が並び、手入れの行き届いた十三塔のある庭園がある。御本尊は如意輪観世音菩薩。薬師堂の薬師如来は、寺の前の山、西山山頂の極楽寺(明智の丹波攻めで焼失)より移されたもので、別名を「黒薬師」と言い、病氣平癒に地域の信仰を集めている。

### 旧篠山線 村雲駅記念碑

多紀郡は珪石(溶鉱炉の素材として軍の必需品であった。)の一大産地で全国産額の5割を生産した。この珪石の輸送線として昭和19年4月、篠山線が開通し、営業を開始した。昭和47年2月廃線となるまで28年間地域住民の足の役割も果たした。向井老人会の手開整されたのである。(結局三田までしか水路はできなかった。)馬の背に乗せれば2俵のところを船で運べば一度に18俵くらい乗るのである。向井の山倉で船の櫂(か)が見ついている。船着場がどのあたりにあったのか?興味のある話である。

### 栃梨古城

初井川の南に栃梨の集落がある。向井と栃梨の境山には、戦国時代、細工所城(荒木鬼、荒木氏香の居城)の枝城・出城で、初井城や幡路城を一望にできる重要な拠点として栃梨城があった。明智光秀の丹波攻めで落城した。今は城山と言われている。

### 貝田

もとは「垣田」「かい田」は「かき田」の音便)でいつのころか貝田の字をあてるようになった。(前掲「多紀郷土史考」より)

「この貝田にト口神田というのがあ

は貝田、刈入れは井串、収納は向井となり、三ヶ村共有である。ト口神というのは「占神」のこと(福原會下山人「多紀郷土史話」という説もあるが、「燈籠神」で、この田地の収穫で毎夜灯籠に点灯する油料等の費用にあてたのでは(前掲「多紀郷土史考」より)

また、貝田には、栃梨よりに「森さん」と言われるところがあった。これは熊野神宮の故宮が祀られていたところで、ここから小野新の新宮へ遷座したといわれる。(今は圃場整備でそのあとはない)

### 貝田 亀井山 蔵六寺

寺名の「蔵六」とは、亀が頭・手・足・尾の六つを甲羅に収めるように、人も「眼・耳・鼻・舌・身・意」の六つの欲望を感めよという仏の教えである。山寺号ともに亀にちなみ「亀々の蔵六寺」とある。名水「亀井の水」(現在石段下の竹藪に井戸があり清水が湧き出している。)があったので名づけられたと考えられる。本尊は秘仏聖観世音菩薩。本堂左側に薬師堂があり、薬師如来像(県指定文化財)が祀られている。像の高さ7フツ、檜材の一木造りで、鎌倉時代初期の制作ではないかと言われる。

この薬師堂は貝田地区の山中にあったが老朽化したため、明治初期に、蔵六寺境内に移築し

たと伝えられる。赤痢など疫病の際の病人の隔離や施薬などを行った養生所に薬師如来像がおかれ、信仰されたと考えられる。毎年7月には地区住民が集まり大祭が執り行われる。

### ⑫(13)(14) 井串 細工所 塙

井串に「朝寝の森」と言って圃場の真ん中に1坪ほどの台地がのこっている。「アサネ」は「ソネ」の意で高貴な人を言う言葉である。伝説によれば、崇神天皇が四道將軍として、丹波道主王命を山陰道に派遣された時、まず村雲の地に来て、鎮武・教化と災厄除けを祈願するため、この地に籠り、国の神「櫛岩窓大神」に齋串を建て祈願された。その地を「アサネの森」と言い、「齋串」(御幣のこと)が転化し、「井串」と伝えてきたのでは? (福原會下山人「多紀郷土史考」・他より)

### 靈輝山瑞祥寺と

### 那須与市大権現

かつては、龍峰山観音寺と言い、極楽坊、脇田坊など五坊からなる七堂伽藍をもつ大寺だったが、室町時代末期の天文年間(1532〜55年)に焼失。細工所城(井串城ともい)によって、寺号を瑞祥寺と改め、曹洞宗の寺院として再興された。本尊は阿彌陀如来。位牌堂に十一面観音菩薩像が安置されている。

那須与市は丹波で病氣になり、ここ